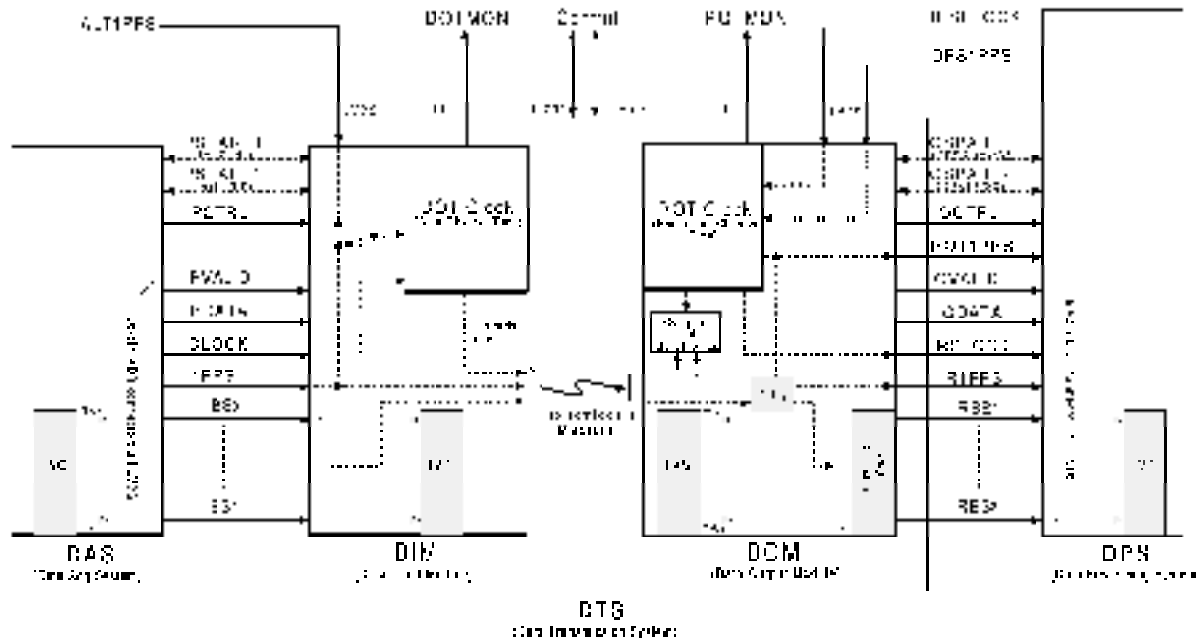


VLBI 標準インターフェースのハードウェア仕様公開される

次世代のVLBI観測装置の互換性を確保する目的で制定を進めていた、VLBI標準インターフェース(VLBI Standard Interface = VSI)のハードウェア仕様がこのほど固まり、公開されました。VSIの概念は、1999年1月に通信総合研究所で開催されたGEMSTONEワークショップで提案され、VSI技術調整グループ(VSI Technology Coordination Group)の中で仕様制定のための作業が進められてきました。VSIで想定された(オプションで4Gbpsまで)のデータ速度を想定し、観測したデータを相関器にまで送る部分をデータ伝送部と定義して、データ入力部と出力部のインターフェースを規定しています。データ伝送部には、磁気記録装置だけではなく、高速データ通信によるリアルタイムデータ伝送も視野に入れられており、VLBIのみならず様々な科学的観測における高速データ伝送の標準化にもつながるものであるとすることができました。

通信総合研究所のグループは、国立天文台と協力してこのVSIのハードウェア仕様に関する議論に当初から積極的に参加し、今回の仕様制定に大きく寄与しました。今後は、VSIのハードウェア仕様を満たすVLBI観測装置の開発を早急に行い、VSIの実現を目指す一方、VSIのソフトウェア仕様の制定に向けた作業を開始する予定です。VSIのハードウェア仕様と、これまでの経緯などの関連する情報は <http://www.crl.go.jp/ka/radioastro/tdc/ivs/vsi/> にまとめてありますので、そちらをご参照下さい。(Y.K.記)



IVS (国際VLBI事業)の第1回総会でVSIについて紹介する Alan Whitney 氏 (米国ヘイスタック観測所)

VLBI 標準インターフェース (VSI) の概念ブロック図